

こども病院移転による西部地区小児 2 次医療提供体制への影響について

1 前回までの議論の整理

(1) こども病院における 2 次医療（地域医療）について

- こども病院では、基礎疾患を有しない小児感染症科の入院患者を 2 次医療（地域医療）の患者とみなすことができる。
- その理由として
 - ① 2 次医療とは、高度あるいは特殊な医療を除く一般の入院医療であり、感染症については、抗生物質や予防接種の普及等によって、その治療に高度な専門性を必要とする部分が少なくなっていること、
 - ② 開業医からの紹介等により、時間外に入院してくる、けいれん等、感染症以外の患者については、他の入院患者に迷惑にならないよう、個室に入院させるのが望ましく、個室対応可能な感染症科での受け入れとなること
が挙げられる。
- 当該患者のほぼ全てが福岡都市圏からの患者であることから、基礎疾患を有しない小児感染症科の入院患者が 2 次医療（地域医療）の患者であることが裏付けられる。

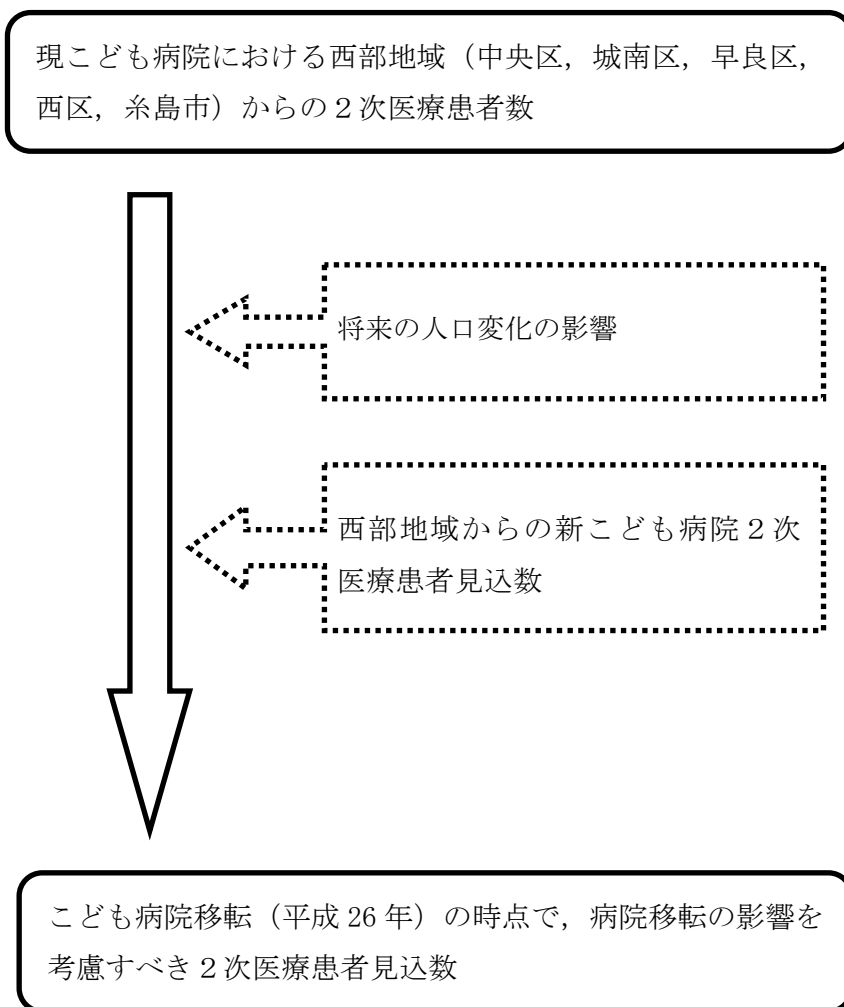
(2) こども病院における西部地域からの 2 次医療（地域医療）患者数について

- こども病院では、基礎疾患を有しない小児感染症科の在院患者（以下、「2 次医療患者」という。）の数は、平成 20 年度～22 年度の 3 カ年平均で延べ 8,839 人、1 日平均 24.2 人である。
- こども病院のアイランドシティ移転による影響を考慮すべき地域（以下、「西部地域」という。）は、主として現こども病院以西の早良区、西区、糸島市であると考えられるが、ここでは幅広く見て病院所在の中央区及び隣接する城南区を含めた地域と考えることとする。これらの地域からの 2 次医療患者数は、平成 20 年度～22 年度の 3 カ年平均で延べ 5,566 人、1 日平均 15.2 人である。
- 現在のこども病院に東区や粕屋保健医療圏からの 2 次医療患者もいることを考えると、西部地域から新こども病院に入院する患者も引き続きいると思われるので、同患者の数がどのくらいになるか、今後、検討する必要がある。

2 移転後（平成 26 年）における，こども病院移転の影響を考慮すべき 2 次医療患者数の見込みについて

（1）考え方

- こども病院移転（平成 26 年）の時点で，病院移転の影響を考慮すべき 2 次医療の患者がどのくらいいるのかを検討するにあたり，現こども病院における西部地域からの 2 次医療患者数に，将来（平成 26 年）の人口変化の影響を加味し，西部地域からの新こども病院 2 次医療患者数として見込まれる数を除くものとする。



(2) 将来の人口変化の影響について

- 現こども病院における西部地域からの2次医療患者数は、今後、こども病院が移転する平成26年までに人口増減に伴い、変化すると考えられる。
- そこで西部地域における将来の15歳未満人口の変化を見ると下表のとおりである。

(単位：人)

	中央区	城南区	早良区	西区	糸島市
15歳未満人口(H22)…A	17,562	16,495	31,510	30,181	14,165
15歳未満人口(H26)…B	19,100	16,600	32,500	29,600	12,867
変化率… $C = \frac{B-A}{A}$	0.09	0.01	0.03	△0.02	△0.09

※ 「15歳未満人口(H22)」は、平成22年国勢調査の数値である。

※ 「15歳未満人口(H26)」については、福岡市内の各区の数値は「福岡市の将来人口推計(平成24年3月)」によるものを用い、糸島市の数値は、「第1次糸島市長期総合計画」にある将来目標人口を基に、事務局が直線補間により算出したものである。

- 現こども病院における西部地域からの2次医療患者数もそれぞれの地域ごとに15歳未満人口と同様の割合で変化すると考えると、同患者数に対する、将来の人口変化の影響は下表のとおりとなる。

(単位：人)

		中央区	城南区	早良区	西区	糸島市	計
現こども病院の2次医療患者延数(H22)…A		659	365	1,636	1,547	777	4,984
15歳未満人口の変化率…B		0.09	0.01	0.03	△0.02	△0.09	
将来の人口変化の影響	延人数… $C = A \times B$	59	4	49	△31	△70	11
	1日あたりの人数… $D = C / 365$	0.2	0.0	0.1	△0.1	△0.2	0.0

※数値は四捨五入表示のため合計値が符合しない場合がある。

将来人口変化の影響は1日あたり0.0人となり、ほぼ影響はないといえる。

(3) 西部地域からの新こども病院2次医療患者数の見込みについて

- 現在，東区や粕屋保健医療圏，筑紫保健医療圏といった遠方からも，こども病院に2次医療のために来られている患者がいることを考えると，こども病院がアイランドシティに移転しても，西部地域からの2次医療患者は一定割合いると考えられる。
- そこで，現在，東区や粕屋保健医療圏，筑紫保健医療圏から，どの程度の患者が現こども病院に2次医療のために来られているかを見ることとする。

(単位：人)

	東区	粕屋保健医療圏	筑紫保健医療圏	計
現こども病院の2次医療患者延数(H22)…A	814	667	165	1,646
15歳未満人口(H22)…B	41,272	44,075	67,310	152,657
地域別受診率…A/B	1.97%	1.51%	0.25%	1.08%

- 移転後（平成26年）の新こども病院においても，上記の割合で西部地域からの2次医療患者が来られると考えると，その数は下表のとおり，年間延べ1,195人となる。

(単位：人)

	中央区	城南区	早良区	西区	糸島市	計	
15歳未満人口(H26)…A	19,100	16,600	32,500	29,600	12,867	110,667	
現こども病院の遠方地域からの受診率…B	1.08%	1.08%	1.08%	1.08%	1.08%		
新こども病院2次医療患者見込数	延人数… $C = A \times B$	206	179	351	320	139	1,195
	1日あたりの人数 $D = C / 365$	0.6	0.5	1.0	0.9	0.4	3.3

※数値は四捨五入表示のため合計値が符合しない場合がある。

- 西部地域からの新こども病院2次医療患者見込数は，3.3人/日となる。ただし，状況によってはこれより少なくなることもありうるので，今後の検討では，西部地域からの新こども病院2次医療患者数を0人/日から3.3人/日と見込むこととする。

西部地域からの新こども病院2次医療患者数は，1日あたり0人～3.3人と見込むこととする。

(4) 現こども病院の2次医療患者のうち、西部地域（中央区、城南区、早良区、西区、糸島市）の患者数の変化について

将来の人口変化の影響は、ほぼないと考えられること、病院移転後の西部地域からの新こども病院2次医療患者数は、1日あたり0人～3.3人と見込まれることから、病院移転の影響を考慮すべき2次医療患者数は、現こども病院における西部地域からの2次医療患者数から、1日あたり0人～3.3人程度の減を見込むことができる。

(5) まとめ

